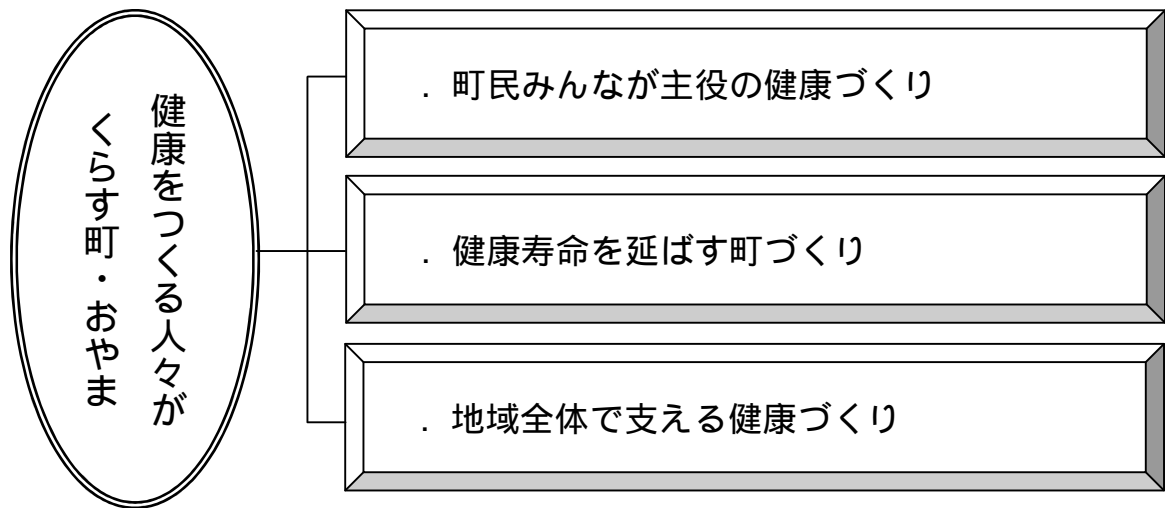


# 第Ⅱ章 基本構想

## 計画の目標

「自分の力に地域の力を合わせ、自分たちの健康は自分たちでつくる」という考え方を基本として、町民の健康づくりに対する意識の高揚を図り、個人的にも、また、組織的にも健康づくりが活性化することを支援していくことが重要です。今後とも、「健康をつくる人々がくらす町・おやま」をスローガンに、心身ともに健康で充実した生活が送られるよう総合的な保健施策をすすめ、町民の健康水準の向上に寄与するために次のことを計画の目標とします。



## 基本方針

上記の目標を達成するため『第2次 小山町保健計画』は、次の4つの視点から、総合的かつ効果的に保健施策を推進します。

一次予防に重点をおいた生涯を通じての健康づくり

個人のライフスタイルが多様化し、少子高齢化が進む21世紀では、生活習慣病を起因とする痴呆や寝たきりなどの要介護状態の人々が増加し、これらを支える人々の負担の増大も予想されます。

したがって、従来にも増して、健康を増進し、病気の原因となるもの(リスクファクター)を予防・改善する「一次予防」に重点をおいた健康づくり施策を強力に推進し、早世(早死)や要介護状態を減少させ、健康寿命の延伸を図っていくことが重要となってきます。

乳幼児から後期高齢期まで生涯を通じた健康づくりが実践できるよう、また町民自らが良い生活習慣に改善していくことができるような施策を推進していきます。

### 地域の特性を生かした健康づくり

小山町には日本一の富士山があり、自然に恵まれたハイキングコースや遊歩道が数多く整備されています。平成4年には総合体育館が整備され、スポーツ活動の拠点として多くの町民に利用されています。町内にある観光資源や農業資源など豊富な自然環境を健康資源として十分に生かし、地域性に富んだ健康づくり施策を推進していきます。

### 健康づくりを支援する体制づくり

町民一人ひとりが意識的に健康づくりに取り組むことは非常に大切なことですが、個人による取り組みだけでは限界がありますので、個人をサポートする地域活動の促進、情報や人材といったソフト面の充実、公園や施設といったハード面の整備など、社会の幅広い分野の連携と協力による、総合的な健康づくり支援体制が必要となってきます。

平成10年度から国民健康保険事業により整備を進めている総合データバンク事業の成人病検診、予防接種、乳幼児健診及び妊産婦等に対応する住民健康管理システムを効果的に活用するとともに、更に福祉面とのネットワークを充実し、また、インターネット等新しい情報媒体による健康情報の提供、保健従事者やボランティアの確保及び育成、保健センターのより効果的な運営など、地域・職域・行政が連携し、一体となって支える健康づくり体制を構築していきます。

### 健康危機管理体制の確保

東海地震及び神奈川県西部地震への警戒が必要といわれ十数年経ちますが、近年は阪神・淡路大震災や和歌山カレー毒物混入事件など、地域住民の生命、健康に直接影響を及ぼすような災害や事件が頻発しており、このような健康危機が発生した場合の医療体制や保健指導體制の確保が求められています。

医師会、歯科医師会、薬剤師会及び保健所等の関係機関との連携・調整を強化し、天災等の健康危機発生時における町の保健衛生部門の役割を明確にするとともに、医療従事者の確保や情報の一元管理を目的としたマニュアル等の整備を図ります。

【 対 策 】

【 施策の方向 】

【 目 標 】

【 計画の目標 】

施策の体系

健康をつくる人々がくらす町・おやま

地域全体で支える健康づくり  
健康寿命を延ばす町づくり  
町民みんなが主役の健康づくり

